

4年次生31名が国体プレ大会に補助員として参加

6月9日（土）～10日（日）、つくば市の荃崎運動公園にて、**高等学校アーチェリー競技の関東大会**が行われました。これは来年度実施される、**国民体育大会のリハーサル大会**でもありました。本校からは**4年次生31名が補助員として参加**しました。

主な仕事内容は得点記録補助員と式典補助員でした。1日目は30℃を超える夏日、2日目は小雨の降る肌寒い日という状況でしたが、生徒たちは朝早くから夕方まで一生懸命活動することができました。補助員の選出は**立候補制**でしたので、もともと**ボランティア精神**を理解している生徒たちでしたが、実際に仕事を行い、様々な人々と触れ合う中で、役割分担や大会運営の難しさ、大切さを感じ、来年度の国体での補助員としての決意を固めたようでした。以下は**生徒の感想文**です。

- 私は今までスポーツの大会には競技者としてしか参加したことがありませんでした。今回、補助員として参加したからこそ見えてくる、**大会を運営する大変さや大切さ**を改めて感じました。今回の大会に限らず、日常の様々な場面で**支える人がいて、支えられている人がいる**ということのを忘れずに生活していきたいと思いました。
- アーチェリーを間近で見たことのなかった私は、選手の方々が一矢一矢を真剣に射る姿を見てその**気迫に圧倒されました**。また、高校生の時に茨城で国体が開催されることを嬉しく思いました。補助員として参加するという**貴重な体験**ができてよかったです。
- 補助員を体験してみて、任されて仕事をするのは大変だということを知りました。何とかできるようになっていたことがどうにもならないこともあるということに気づかされました。また、集団行動をしていたので**全員で協力することの大切さ**も実感しました。2日目の閉会式で司会をさせてもらったのは嬉しかったのですが、ただ喜ぶだけでなくこれからの**自分の糧にしていきたい**と思います。
- 今回の活動で、**多くの人とのコミュニケーション**をとることができました。普段あまり初対面の人と一緒に活動することがなかったので、貴重な体験となりました。また、ボランティアとして働いたことで達成感を得ることができ、**ボランティア活動の楽しさや大切さ**を実感することができました。

